

# Bibliophiles

ビブリアオフィルス No.12(2016年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

Why not be  
「本の虫」?



## 英語科の先生方の選書で 英語の本を大量に入荷しました!

「英語力をつけたい」と思っているあなた。脳科学者の茂木健一郎氏は「**英語力は読書量に比例する**」と言っています。考えてみればそれはそうで、ぼくたちの母語の日本語だって学校の教科書を読んだり、新聞や本に触れることで日本語の力をつけてきているわけです。英語も同じで、どんどん本を読むことが向上の近道ですよ!というわけで、「ペンギン・リーダーズ」という英語学習のための本を大量入荷しました。「シャーロック・ホームズ」ものや「アンデルセン童話」といった有名なお話から、「オードリー・ヘップバーン」や「バラク・オバマ」といった著名人の伝記などバラエティに富んだ内容です。レベルも英検3級程度の「レベル2」が中心です。一度お試し下さい。

### 『音楽する日乗』

久石譲

ジブリ作品における親しみやすく美しい映画音楽の作曲家として大変有名な作者ですが、そんな横顔とは裏腹に彼は若い頃は「ミニマル・ミュージック」などの前衛的な音楽を作っていたそうです。この本では、そんな作者がクラシック音楽の歴史や、現代の音楽のあり方までを、分かりやすく情熱をこめて語ります。

### 『ハリー・ポッターと呪いの子』

シリーズ8作目となる最新作は、意外にもローリング氏が脚本家・演出家と協力して作った、舞台劇の脚本でした。このお芝居は、現在ロンドンで上演中で、大西洋を超えてニューヨークのブロードウェイでも上演される予定です。しかし、どっちにしても日本から見に行くには遠い(´Д｀)・・・なのですが、ワーナーが映画化を計画しているそうなので、そっちに期待しましょう!でも、その前に本を読まなくっちゃ。

### 『聖(さとし)の青春』

大崎善生

難病を患いながら、プロの棋士として生き、29歳の天寿を全うした村山聖。この本は彼の人生を振り返るノンフィクションで、松山ケンイチ主演で最近映画化され、話題になりました。付録として、彼の熱戦を再現する「棋譜」が載せられています。

### J. K. ローリングほか

## 『キングダム』

原泰久

中国の春秋戦国時代を舞台にしたマンガで、手塚治虫文化賞を受賞し、テレビアニメ化もされた人気作品を44巻まで入荷しました。楽しく読みながら、漢文や世界史の学習の助けにもなりますよ。ただし、戦国の乱世を描いたマンガゆえ、暴力の描写が多い点ご注意ください。

## 『象徴天皇「高齢譲位」の真相』

所 功

今上天皇の「譲位」が最近、正式に決まりましたが、この本では皇室問題の専門家である作者が、ここまでの経緯を憲法や皇室典範などもからめて詳しく説明しています。生前退位(譲位)した天皇の一覧表など、この問題に関する資料も大変充実しています。



## 蔵書点検が始まります。

### ①2/22(水)~2/28(火)

閲覧室で自習はできます。雑誌以外の本は読むことも借りることもできません。

### ②3/1(水)~3/22(水)

点検のため、完全に閉館します。

### ③3/23(木)

終業式の日には開館です。翌日から春期休業期間のため、閉館となります。

## サッカー、バドミントン、水泳のトレーニングの本を入荷しました。

まずはドイツサッカー連盟公認A級ライセンスを持つ中野之伴氏による『**世界王者ドイツの育成メソッドに学ぶ サッカー年代別トレーニングの教科書**』。年代別トレーニングの実践的解説やドイツサッカーの強さの秘訣の話など、サッカー・ファンなら一度は目を通しておきたい内容です。次に、ケガから選手に復活した経験を生かし、現在理学療法士である片山卓哉氏による『**バドミントン ボディ革命 体リセット57**』。ただのストレッチにとどまらず、筋肉を活性化させたり、左右の筋肉バランスを調整したりなど、目からウロコの練習メニューが目白押しです。最後に水泳は、ロンドン五輪で日本代表のトレーナーを務めた小泉圭介氏による『**水泳 体幹トレーニング**』。文字通り「体」の「幹」をキーワードにして、4泳法をより効率よく&より速く泳ぐための指南書です。

## 今号のひとこと

**Mankind must put an end to war, or war will put an end to mankind.**  
John F.Kennedy  
人類は戦争に終止符を打たなければならない。さもなければ、戦争が人類に終止符を打つことになるだろう。

ジョン・F・ケネディ (1917-1963)

今年生誕100年を迎えるアメリカの元大統領です。彼が死の2年前に、国連で演説した時の名言なんです。今の君たちから見れば、戦争の怖さを少し大げさに表現しているように感じられるかも知れません。でも当時、アメリカとソ連は「冷戦」状態にあり、「核爆弾がやがて世界を滅ぼすのでは」という恐れを誰もが抱いていました。21世紀の現在では、核が人類を破滅させるとは人々はあまり考えなくなっています。しかし、核や戦争の恐ろしさを次の世代へ伝えていくことは、今もって大切なのではないのでしょうか。